

第4回 福祉の里Webセミナー

重症心身障がい児者への 災害時の支援を一緒に考える

中部学院大学短期大学部

社会福祉学科

高野晃伸



災害とは

広い範囲で深刻かつ急激に発生し、対応するのにたいへんな努力が必要となる。

近年は毎年のように自然災害が発生しているため、日頃からの備えが大切になる。



いろいろある自然災害



風水害
雪害
津波
地震
噴火
など

予測できる

災害対策を具体的に整える時間があるため、
対策不十分の場合は訴訟問題に発展することもある

予測できない

突然、災害が発生するため、日頃から準備を
しておく必要がある

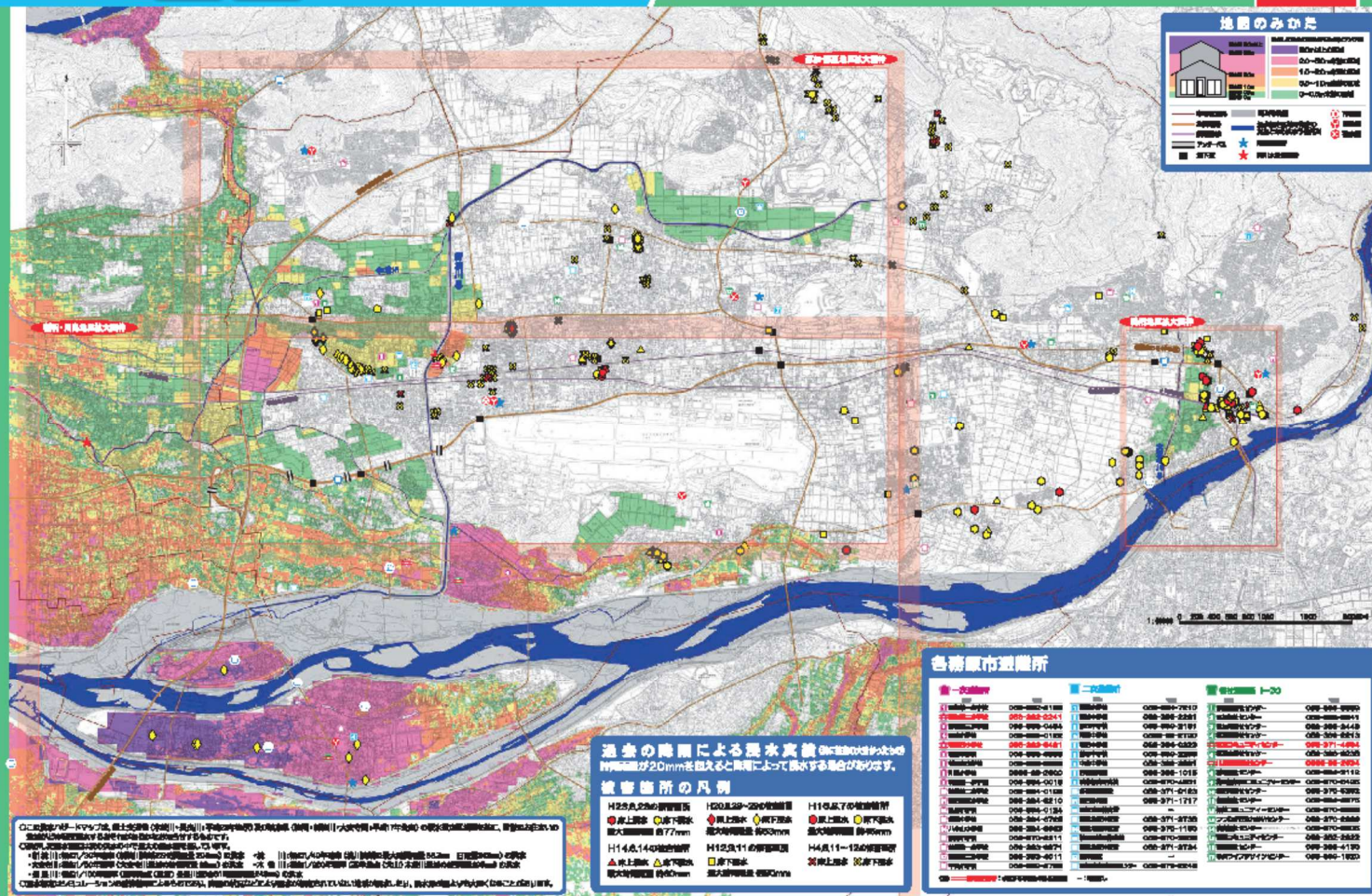
自然災害について 「風水害」

台風	風害と水害の二つが複合的に発生 進路の予想ができる
集中豪雨	狭い範囲を短時間で大雨が降る。 川の急激な増水につながる
土砂災害	台風や豪雨により発生恐れあり。

各務原市洪水ハザードマップ

本図は以下の2つの浸水情報をお知らせしています。
 ①河川、湖沼、大雨等による浸水
 ②台風による浸水
 ③河川、湖沼、大雨等による浸水
 ④台風による浸水

全市域版



自然災害について 「地震」

海溝型地震	海溝のプレートにより発生
活断層地震	断層のずれにより発生する地震



岐阜県の 主な活断層



<https://twitter.com/hashtag/岐阜地震>

複合型東海地震 による岐阜県の 震度分布予測



障がい者の被災状況

東日本大震災では、被災地全体の死者

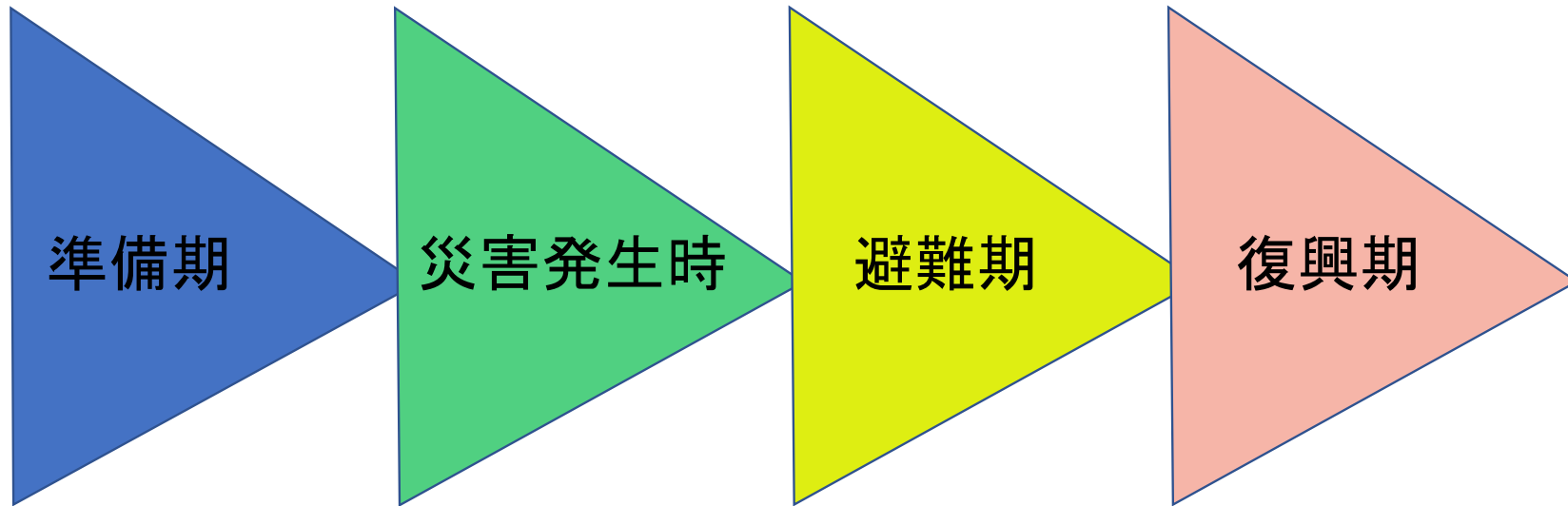
- ・ 65歳以上の高齢者の死者数が約6割
- ・ 障がい者の死亡率が被災住民全体の約2倍

障がい特性のために環境の変化により、持病が悪化した事例も報告されている。

平時において障がい者の災害対策や地域での障がい者への支援体制が確立されていなかったことが一因と考えられる

（日本弁護士連合会：災害時における高齢者・障がい者支援に関する課題―東日本大震災から検証する―、あけび書房（2012年））

災害サイクルに応じた支援内容



災害サイクルに応じた支援内容

準備期

- ・ 被害の予測
- ・ 避難方法の確認
- ・ 備蓄の準備
- ・ 「避難行動要支援者」名簿の確認
- ・ 近隣者との交流



事前確認の内容 例

ハザードマップの確認

情報の入手手段の確保

携帯端末テレビ、ラジオなど

連絡先及び通信手段の確保

「誰に」「どのような手段」で連絡するか

避難を開始する時期、判断基準

「警戒レベル」で避難確認

避難場所の確認

指定避難所、福祉避難所、病院

避難経路・避難方法

安全な避難経路の確認

緊急時の協力依頼

「避難行動要支援者名簿」 「要配慮者名簿」

要配慮者台帳

災害時及び平常時に、地域の支援を必要とする人（高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者）

避難行動要支援者（名簿対象者）

要配慮者のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難なものであって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者

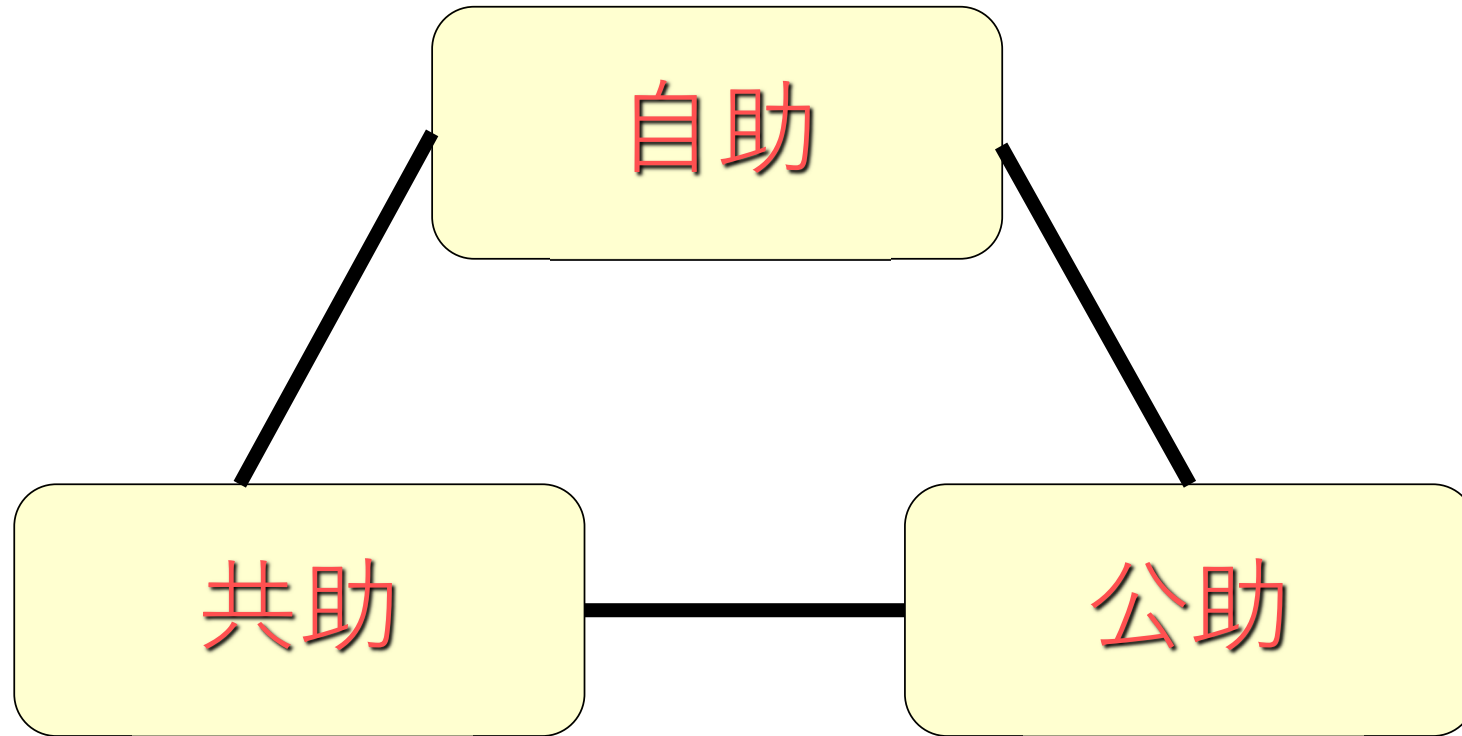
【名簿の対象】

区分	要件
高齢者等	65歳以上の高齢者で、ひとり暮らし・高齢者世帯の届出をしている者 要介護認定を受けている者（要介護度1～6級）
身体障がい者	身体障害者手帳所持者（1～6級）
知的障がい者	養育手帳所持者（A・A1・A2・B1・B2）
精神障がい者	精神障がい者保健福祉手帳所持者（1～3級）

岐阜市災害時要援護者支援協議会資料より

災害時に必要な三助

災害を想定した、日頃の備え



コミュニティ作りの
重要性

行政の支援は、良くも悪くも平等に行われる

緊急時の協力依頼

近隣の住民や医療機関、想定される避難場所等に、緊急時の協力依頼をしておく

(例) 避難時の地域住民の協力
避難場所の確保
相互の救援活動 など

日頃の備えの重要性
自助 ⇒ 共助

日ごろの医療的ケアへの備え (喀痰吸引が必要な場合)

吸引器に内部バッテリーがあるか確認

- ①内部バッテリーを充電し、持続時間の確認
- ②内部バッテリーが無い場合、外部電源を準備するか、電気を使用しない吸引器を準備しておく
 - ⇒ ・ シリンダ＋吸引カテーター
 - ・ 手動式吸引器
 - ・ 足踏み式吸引器

日ごろの医療的ケアへの備え (酸素療法が必要な場合)

1)酸素濃縮器に内部バッテリーがあるか確認

①内部バッテリーが持続時間を確認

②内部バッテリーが無い場合

- ・ 停電時にすみやかに携帯用酸素ポンベに切り替える
- ・ 外部バッテリーのある機種では、持続時間を確認しておく。

2)携帯用酸素ポンベがいつでも使用できるか確認

- ・ 予備カニューレや延長チューブと一緒に
- ・ 酸素流量によって使用時間変わるため、対応時間を把握しておく

3)酸素ポンベは、すぐに使える場所にしっかり固定して設置

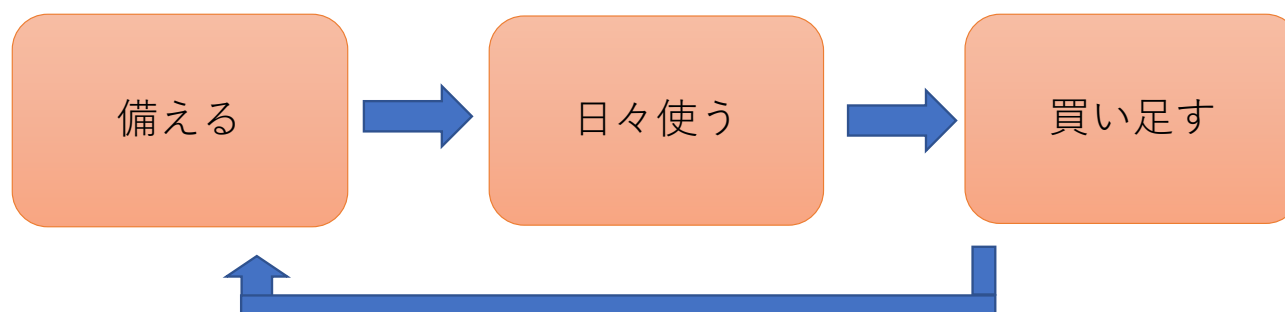
4)地震の際に利用者の安否確認をするシステムを作っている酸素取り扱い業者もあるため、確認しておく。

日ごろの医療的ケアへの備え (人工呼吸器を使用している場合)

- 1)人工呼吸器が地震の際に転倒しないように固定
- 2)電気の必要性（生命維持のため）について、あらかじめ電気会社に伝えておく
- 3)外部バッテリーがある場合、対応時間の確認
 - ⇒内部と外部バッテリー合計8時間を目標とする
 - ⇒経年的に持続時間が短くなるため、買い替えについて業者に確認
- 4)人工呼吸器が停止した場合、アンビューバックによる人工呼吸が必要になるため、確認しておく。
- 5)電源復旧時に設定が変更になる可能性あるため、設定を戻す方法を確認しておく。

平時での備蓄方法 (ローリング・ストック方式)

非常時に特別に使用する備蓄ではなく、平常時に使用している用品などは、意識的に多めに用意しておき、被災時の備蓄として活用する。



災害サイクルに応じた支援内容

災害発生時

- ・ 生命の確保
- ・ 避難誘導
- ・ 応急処置



警戒レベルを用いた避難勧告等の発令

2019年の出水期より、「警戒レベル」を用いた避難情報が発令されます。

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル 5	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動をする。	災害発生情報※ ※災害が実際に発生していることを把握した場合、可能な範囲で発令 (市町村が発令)
警戒レベル 4 全員避難	速やかに避難先へ避難する。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。	避難勧告 避難指示（緊急）※ ※地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令 (市町村が発令)
警戒レベル 3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人（高齢者、障がい者、乳幼児等）とその支援者は避難をする。その他の人は避難の準備をする。	避難準備・高齢者等避難開始 (市町村が発令)
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル 1	災害への心構えを高める。	早期注意情報 (気象庁が発表)

避難の種類

災害の発生前に早めに避難をする。

水平避難	指定避難場所など、安全を確保できる場所に一時的に避難
垂直避難	浸水から逃れるため、自宅の2階など安全を確保できる高さの場所に避難
待機	自宅などにとどまる

指定避難所

- 市が開設・運営する避難所
- 一定期間の避難生活をするための場所（長期の避難生活は想定されていない） 小・中学校など

⇒過去の災害で、障がい児者が避難所で避難生活ができない事例（他避難者の無理解、避難所環境の不十分など）が多いため、平時から避難先の確保や地域住民との交流が必要

【一次避難所】

災害によって生活する場所がない場合や、避難が長時間におよび宿泊する必要がある場合に開設される避難所。「小学校区」を基本。防災備蓄倉庫が設置され、現地連絡所として市職員の配備体制が決められている。

地区	避難所	所在地
那加	那加第一小学校	各務原市那加手力町22-5
那加	那加第二小学校	各務原市那加雲雀町1
那加	那加第三小学校	各務原市那加東亜町1-1
那加	尾崎小学校	各務原市尾崎南町3-2
稲羽	稲羽西小学校	各務原市大佐野町1-233
稲羽	稲羽東小学校	各務原市前渡西町1393
稲羽	稲羽中学校	各務原市上戸町5-40
川島	川島小学校	各務原市川島河田町1041-3
鵜沼	鵜沼第一小学校	各務原市鵜沼西町4-179
鵜沼	鵜沼第二小学校	各務原市鵜沼各務原町2-260
鵜沼	鵜沼第三小学校	各務原市新鵜沼台4-1
鵜沼	緑陽中学校	各務原市緑苑北1-4
鵜沼	八木山小学校	各務原市つつじが丘1-1
鵜沼	陵南小学校	各務原市鵜沼大伊木町4-425
鵜沼	各務小学校	各務原市各務おがせ町4-7
蘇原	蘇原第一小学校	各務原市蘇原野口町1-1
蘇原	蘇原第二小学校	各務原市蘇原沢上町1-19
蘇原	中央小学校	各務原市各務西町4-302

各務原市HP: www.city.kakamigahara.lg.jp/life/bousai/.../index.html

【二次避難所】

一次避難所だけでは対応できない大規模災害が発生したときに開設される避難所

地区	避難所	所在地
那加	那加中学校	各務原市那加東亜町48
那加	桜丘中学校	各務原市那加不動丘1-77
那加	県立各務原西高等学校	各務原市那加東亜町24-1
那加	総合体育館	各務原市那加太平町2-100
那加	桜体育館	各務原市那加手力町41
那加	那加地区体育館	各務原市那加新加納町2225
稲羽	稲羽地区体育館	各務原市神置町3-327
川島	川島中学校	各務原市川島河田町1028-1
鵜沼	鵜沼中学校	各務原市松が丘2-100
鵜沼	緑苑小学校	各務原市緑苑北1-26
鵜沼	県立岐阜各務野高等学校	各務原市鵜沼各務原町8-7-2
鵜沼	鵜沼地区体育館	各務原市つつじが丘4-138
鵜沼	鵜沼西地区体育館	各務原市鵜沼各務原町6-7
鵜沼	岐阜県科学技術振興センター	各務原市テクノプラザ1-1
蘇原	蘇原中学校	各務原市蘇原青雲町1-10
蘇原	中央中学校	各務原市各務西町4-358-1
蘇原	県立各務原高等学校	各務原市蘇原新生町2-63
蘇原	蘇原地区体育館	各務原市蘇原古市場町5-2

各務原市HP: www.city.kakamigahara.lg.jp/life/bousai/.../index.html

福祉避難所

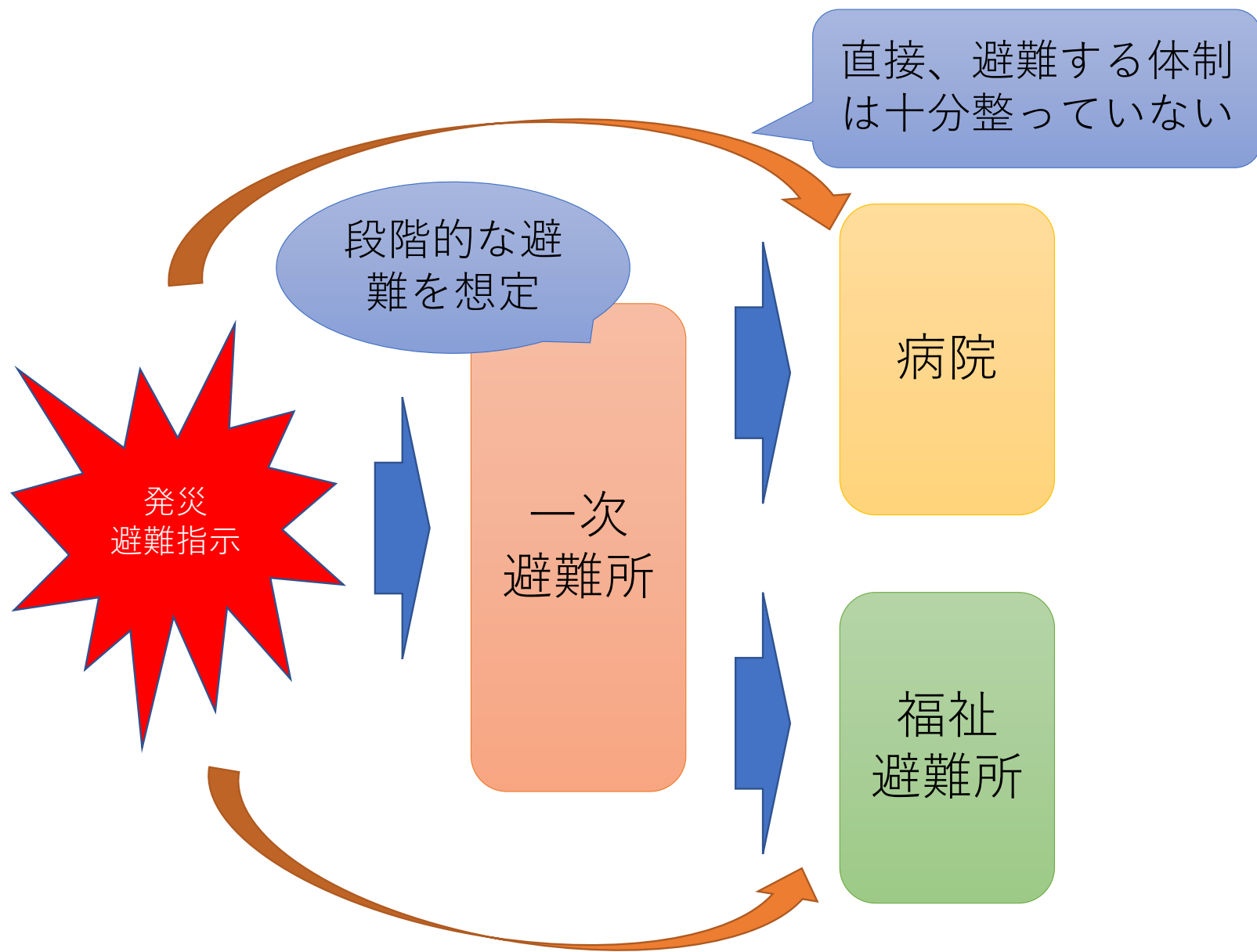
- 必要に応じて開設する二次的な避難所
- 障がい者や高齢者、妊産婦や乳幼児、病弱な人とその家族らのうち、一般の避難所生活が困難な人が対象
- まず一般の指定避難所で生活し、その後、自治体側が対象者を選ぶ。

要介護者のみならず近隣住民も避難してくる可能性が高い

【福祉避難所】

避難所での生活において、特別な配慮を要する方の避難所。

地区	小学校区	避難所	所在地
那加	那加第一小	那加西福祉センター	各務原市那加手力町60
那加	那加第二小	那加福祉センター	各務原市那加雲雀町15
那加	那加第三小	那加南福祉センター	各務原市那加東亜町121
稲羽	稲羽西小	稲羽コミュニティセンター	各務原市 上戸町3-324
稲羽	稲羽西小	稲羽西福祉センター	各務原市小佐野町3-205
稲羽	稲羽東小	稲羽東福祉センター	各務原市前渡北町2-34
川島	川島小	川島健康福祉センター	各務原市川島松原町405-5
鵜沼	鵜沼第一小	鵜沼福祉センター	各務原市鵜沼羽場町1-217
鵜沼	鵜沼第二小	各務原区コミュニティセンター	各務原市鵜沼各務原町6-2-3
鵜沼	鵜沼第三小	鵜沼東福祉センター	各務原市鵜沼山崎町4-8
鵜沼	緑苑小	緑苑コミュニティセンター	各務原市緑苑南1-1-3
鵜沼	八木山小	つつじが丘ふれあいセンター	各務原市つつじが丘4-137
鵜沼	陵南小	陵南福祉センター	各務原市鵜沼朝日町2-384-1
鵜沼	各務小	各務福祉センター	各務原市各務おがせ町5-2-2
蘇原	蘇原第一小	蘇原コミュニティセンター	各務原市蘇原野口町1-1-3
蘇原	蘇原第二小	蘇原福祉センター	各務原市蘇原吉新町2-16
蘇原	中央小	中央ライフデザインセンター	各務原市蘇原中央町2-1-8



岐阜県の総合病院一覧

- 各務原病院（杏野会）
- 各務原リハビリテーション病院（誠道会）
- 自衛隊岐阜病院
- 東海中央病院 ← 中継拠点病院
- 横山病院

岐阜県の災害拠点病院

- ・ 大規模災害時における重篤救急患者への高度診療
- ・ 地域の医療体制だけでは対応できない患者を地域外へ搬送する広域搬送
- ・ 医療救護チーム（DMAT）の派遣
- ・ 地域における災害医療活動の指導調整等

基幹災害拠点病院 ※県内全域の災害医療の中心的役割を果たす病院

地域独立行政法人岐阜県総合医療センター

岐阜大学医学部附属病院

地域災害拠点病院

岐阜赤十字病院	岐阜市民病院
社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院	大垣市民病院
社会医療法人厚生会木沢記念病院	岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院
中津川市民病院	地方独立行政法人岐阜県立多治見病院
高山赤十字病院	久美愛厚生病院

障がいのある人の避難 ～避難前の取り組み～

- 避難が必要な災害が起きた場合、家族だけの力で避難することは困難。
 - ⇒地域の中に自分を支える仕組みをつくる
必要性
- 発災時におかれた状況を正しく把握できるよう、
情報を得る努力
- 日ごろから必要品の確保
発電機、おむつ、食料・飲料

障がいのある人の避難 ～避難における課題～

1) 避難先の確認

一次避難：指定避難所

二次避難：福祉避難所や病院

一次避難所での生活は最小限にとどめる必要がるため、想定される避難先を確認しておくことが必要

※過去の震災では、福祉避難所に直接駆け込んだ事例あり

2) 避難先までの移動方法

地域の協力が不可欠となる

⇒日頃から地域の避難訓練に参加 など

避難期

災害サイクルに応じた支援内容

- ・ 生命の維持
- ・ 体調管理（二次災害の予防）
- ・ 衣食住の確保
- ・ 医療の確保



避難所の生活～生活場面における影響～

- プライバシーが保てない
- 面識のない人が多く、休息できない。
- 同一場所での寝食となるため、生活にメリハリが無くなる。
- 換気及び清掃が十分行われず、不衛生になる。
- 大量のゴミが出るため、悪臭や虫が発生する。
- 食事内容が限られたり、固く冷たい等で満足な食事が得られない。
- 大勢の中で更衣が自由にできない。
- からだの清潔が保てない（清拭、入浴等が困難となる）。
- トイレの使用が困難になる（距離が遠い、洋式便座でない、段差がある、夜間動きづらい等）。
- 慣れない環境で転倒しやすい。

ライフラインが停止した状態での介護活動

- 避難所生活のケア

環境調整の工夫(間仕切り、寝具の取り扱い、他者との関係性構築、生活導線の確保、衛生管理 など)

- 栄養管理とケア

備蓄の必要性

- 身だしなみのケア

落ち着きと生活感を取り戻す1つのきっかけ

- 清潔ケア

ウェットティッシュや温めたタオルなどの活用 など

- 排泄ケア

排泄しやすい環境の整備

ライフラインが停止した状態での介護活動

- 活動と休息へのケア

- ①動きやすい空間(動線) ②リズムと休息 ③アクティビティの実施
- ④介護者の休息

- 医療的ケアへの対応

生命に関わるため、継続できる対応(電気の確保 など)

薬に関する管理や記録(日頃から最低3～7日間分の携帯)

すぐに持ち出せる場所に保管(家族や知人に伝達)

- 精神症状への対応

避難生活のストレスが大きいため、環境の整備や支援者の接し方(一人にしないなど)に注意が必要

停電への対応

- ①機器の内部バッテリー
- ②機器の外部バッテリー
- ③機器に付属する（もしくはオプション購入）シガーライターケーブル
- ④自動車のシガーライターソケットからインバーターを用いる
- ⑤自動車用のバッテリーから直接インバーターを用いる
- ⑥蓄電池
- ⑦UPS（無停電装置）
- ⑧自家発電機
- ⑨各種アルカリ電池
- ⑩（携帯電話・スマートフォン用）乾電池式充電器・手回し発電機・ソーラー式発電機

ドラム型延長ケーブル
も必要

医療の確保

医療と速やかにつながりを持つことができるよう、
平時からの準備が必要

- ・ 避難期間を想定した薬の備蓄（常に多く持っておくようにし、ローリング・ストックを意識する）
- ・ 避難先で薬が処方できる準備（お薬手帳、薬の袋など）
- ・ 日頃から主治医に相談しておき、緊急時の対応を協議しておく（別の病院に行く可能性）
- ・ 被災地を出る場合を想定し、頼れる人を確保（親戚や知人など）

避難先での感染予防

- 避難生活でのマスク着用
- 手洗い、アルコール消毒
- 定期的な換気（空気の流れを作る必要あり）
- 床20 c mに雑菌
30~40 c mの高さ確保さらた臥床空間
スリッパ使用
下足と土足の区別（下駄箱の管理）
- 衛生的なトイレ環境
- 手すりなど人が頻繁に触るところは菌がいる（冷蔵庫など）
動線を考えた対応
- パーテーションの設置（感染予防としては高い方がよい）

絶対ではなく、リスクを下げることを目指す

復興期

災害サイクルに応じた支援内容

- ・新たなコミュニティの形成
- ・生活空間の確保



求められる日ごろの備え

自然災害に備え、平時から避難を想定した準備
をしておくことが必要

⇒食料、発電機などの備蓄

医療機関との連携、地域住民への協力理解

避難方法・避難場所の確認

**全ての尊い命と生活を守るために
大切な日ごろの備え**

**ご参加いただき
有難うございました。**

